

## 縁を大事にするということ

アサヒクオリティーアンドイノベーションズ株式会社  
解析科学研究所

中野 洋介

私は2011年に応用資源科学科、いわゆる「応自」に入学し、その後当時の生命先端工学専攻生物工学コース、いわゆる「応生」に進学、博士前期・後期過程を卒業しました。学部4回生から5年間福崎英一郎先生のご指導の元で昼夜、寝る間も惜しんで(?)、楽しく研究に励み博士学位を頂きました。そして卒業の春、ご縁がありアサヒビール株式会社に研究開発職として入社しました。

会社のことを少しご紹介させていただきます。アサヒビールやアサヒ飲料という会社をご存知でも、アサヒクオリティーアンドイノベーションズ(AQI)という名前に馴染みのない方もたくさんいらっしゃると思います。実は元々アサヒグループホールディングスの一部門であったR&Dを完全に集約・独立させて2019年に発足したまだピカピカの新社です。アサヒグループの10年後、20年後の中長期的な未来を担う研究を推進することをミッションとしている他、グループの方向性を決める研究戦略立案や新規事業創出などいわば研究シンクタンクとしての機能も担っています。

私は入社後半年経たない内にAQIに出向しました。配属されたのは、分析技術開発部という部署で、アサヒグループ製品の安心・安全を担保する高水準な分析法を作ることがミッションです。学生時代、まさに分析法開発に取り組み、その研究で学位を頂いた身としては、自分の学んできたことを遺憾なく発揮し、自ら主体的に業務に取り組みめる機会を得たことは非常に幸運でした。現在は、同部署で3年目を迎え、さらに研鑽を積みつつ、今の社会そしてその先の未来に新しい価値を生み出すためにはどうすれば良いかを考えながら、ワクワクして研究開発業務を行っています。

学生研究者から企業研究者となり、より一層「人と人の結びつき」の大事さを日々感じています。イノベーションは既知のアイデアの新結合とよく言われますが、そ

の為には様々なバックグラウンドを持った人と価値観を共有し、時には意見をぶつけ合いながら洗練されたアイデアに磨き上げていくが必要になります。所属するAQIは、農学、薬学、医学系出身といった自分とは異なる様々な専門性をもったヘテロな集団で構成されており、「なるほど、そういう発想もあるなあ!」と驚かされることばかりです。工学はものづくりの学問なので、その出身者としての見地は貫きつつ、理論的な部分と実用的な部分のバランスの良い研究遂行を心掛けています。

アサヒグループは「期待を超えるおいしさ」と「最高の品質」をお客様にお届けすることを使命としています。お客様が思わず、手に取ってしまう様な魅力のある製品を、そしてそれを口にした時思わず笑みがこぼれてしまう、そんな製品づくりをしたいと思っています。それが100年、200年先も愛される製品になるよう、実のある研究開発を行うことを自分のポリシーとしています。

最後に余談です。ニッカウキスキー社やカルピス社もアサヒグループなのですが、ニッカは偉大な大先輩のマッサンこと竹鶴政孝さんが、またカルピスは箕面市出身の三島海雲さんがそれぞれ生みの親です。阪大工学部出身として、そのレールを走っていることに素敵な縁を感じています。諸先輩方の開拓者DNAを胸に秘め、この先も突き進みたいと思います。

(応用自然 平成27年卒)

生命先端 29年前期 31年後期)